信毎歌壇

米川千嘉子選

さくらよりかたくりの花に動きたるこころ澄ませて醸すわが酒　（長野市）原田　浩生

食卓に退院したての夫がゐてごはん炊く香り立ちのぼる朝　（飯山市）市村紀久子

線香で穴あけ糸で割れ直し使ったセルロイドの筆入れはるか　（松本市）興　絹枝

砂糖より甘き母なりハバネロより辛かりし昔もみ消すやうに　（千曲市）中村　美樹

「先妻の眠れる墓は遺棄して」友は決めたり丘の上の樹木葬　（駒ケ根市）塩沢　春子

次女と吾に高一の孫は辛かった話はじめて夜が明けはじむ　（千曲市）関　津和子

七十六歳はなせばわかる年頃と夫は新聞離して読みぬ　（泰阜村）松島　房子

婚約の成りて登りし槍ケ岳僕の横には君のいた夏　（千曲市）上原　博司

「ソウダヨキミハガンバッテルヨ」とAIに励まされいる小六の孫　（長野市）伊藤　惠子

小手毬が満開だとは排水溝掃除しながら我が家を見たら　（長野市）せきたつお

佳作

プランター蟻の遺足愛しくも台所のは退治せねばと　（伊那市）赤羽　正彦

AI曰く労働が終わり生産が終わり経済が終わるあなかしこ　（上田市）田名網　剛

選評　第一首、人知れず木陰に咲くカタクリに惹かれた心はどんなお酒を醸すのだろう。花とお酒の組み合わせが美しく新鮮。第二首、夫自身はもちろん嬉しいが、作者も嬉しい。昨日までは香りも感じなかったのでは。第三首、こんなふうに修理しながら使っていたとは。60代の私はそういうセルロイドの実際をすでに知らない。第四首、ハバネロとは強烈だが、そう表現するところにエネルギーが。

小池　光選

風薫るナイチンゲールの誕生日今日も看護は患者のために　（佐久市）高橋衣里子

アルプスを望む山あひの村に来て歌会講師五年目の春　（飯山市）小野沢竹次

物言はぬ犬の診断的確な獣医師さんは有り難きかな　（小海町）依田　久代

国策の満洲移民の募集をば拒みし村長いたことを知る　（長野市）宮崎　邑

バックミラーに下がりてをりて色あせしお守りのひもの結び目を解く　（長野市）原田　浩生

花五輪その重みにて枝垂れをり大手毬とふ丸き重みに　（長野市）渡辺　和代

わが脚を血だらけにした飼ひ猫の爪痕残る実家の柱　（塩尻市）藤森　円

ボーナスにも株価にも縁なけれども野菜作りの日々は楽しき　（箕輪町）向山　政俊

田に水が入れば鷺のやって来て蛙を探す五月となりぬ　（飯綱町）坂井　寿男

五月のハエ網戸にはりつきパンパンとたたくも逃げず夕日をあびる　（千曲市）関　津和子

佳作

病む友を助けるすべの知らぬ我夕陽に向かいて祈りたるただ　（千曲市）小西登喜子

「人のため何もできず」と米寿翁専心田畑に汗を流して　（飯田市）矢崎　俊一

選評　第一首、ナイチンゲールの誕生日などという意外な設定である。調べてみるとそれは5月12日。まさに風薫るさなかの誕生であった。第二首、村の短歌愛好者の講師をつとめておられる。もう5年にもなる。人数は多くなくても、みなさん楽しんで励んでいる様子が目に浮かぶようだ。第三首、ペットのためのお医者さん、本当にありがたいと思うときがある。わが家の猫も何度もお世話になった。

小島　なお選

要介護五の認定書文机に孫のぷっちょと並べて置いた　（千曲市）恵　子

苗代道ひとごとみたいに笑ってるフン取る婆のそばにいる犬　（安曇野市）散歩好き

昼と夜のあわいの時間駆けゆけば透明な手が我が背を押して　（佐久市）高橋衣里子

さりげなく立つ位置変えて話聞く風の行方を目で追いながら　（麻績村）小山みよ子

薯を取り一口呑んで薯をするペットボトルも鍬を持つ手に　（上田市）大久保幸吉

動画見るスマホの視線外れてはおじさんに頭突きするうたた寝の娘　（愛知県犬山市）紅紫あやめ

お田植えの進捗見守るおじいさん畦の床几に微動だにせず　（安曇野市）東野　行岳

回診は白きボタンのはなやぎをまといて現る担当の医師　（千曲市）荒井よし子

貞さんの指に掛かればたちまちに諸手の中に鶴が生まれる　（長野市）松本　博人

孫送る車中の会話他愛なく「トラクターでけっ」「水田になったね」　（松本市）溝上ひろみ

佳作

髪染めの結果を夫に聞きをれど夫逝き今は白髪のばあさん　（伊那市）広瀬千代美

年寄りはおしゃべりするが御馳走と食細くなりし義母が語らふ　（松本市）小松　久志

選評　第一首、日常生活全般で支援が必要な介護度。ぷっちょの明るさに託された家族の心とこれからの時間を思う。第二首、「ひとごと」の距離感がおもしろい。嘆をして苗代の風に吹かれて犬は気持ちよさそう。第三首、忙しく加速してゆく暮れの時間。見えないだれかの手に急かされ、励まされながら今日も。第四首、なんとなく帰りたそう。話半分で心は風に乗ってかなたへ飛ばされてゆく。